

## リモート工場見学会をWeb動画撮影するコツ

「経験の浅い」担当者でも、なるべく失敗しない撮影のためのノウハウとは

企画連携課 松井 洋幸

スマートフォンやカメラを持って「工場内などを歩き回りながら設備などの紹介や実施・体験」を動画配信するイベント(リモート見学会、オンラインツアー)が増えています。今回は「注意すべきポイントや撮影方法」などについて、初心者でも撮影の前に知っているだけで助かるノウハウを、プロのカメラ技術の中からピックアップしてご紹介します。

### 小型カメラの利点と欠点

まず、メインとなる手持ち(移動)撮影には、なるべく一般的な、日常よく手にする小型カメラ「ハンディカム、スマートフォン」などを使用するのが良いでしょう。

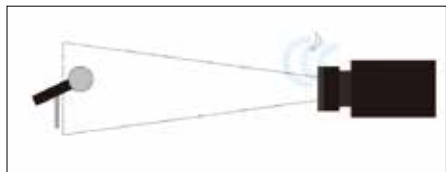
理由は「軽くて小回りが利き、不慣れた撮影者でも使いやすい」というだけでなく、撮影される側、恐らくほとんどの出演者(説明者)は「プロではない、慣れていない」ことから現場で、いきなり業務用の大型カメラを向けられることで「緊張感や、取材を受けている感」から「非日常的」な雰囲気や「ぎこちなく」なって普段通りのスムーズなトークや説明ができなくなることを避けたいからです。

ただ小型カメラにも注意点や欠点があります。特に動画撮影時に室内など「スマートフォンや小型カメラはその構造から暗いところに弱い」(カメラが自動でゲインアップするなど無理やり明るくする)ため、ノイズの多い映像になってしまう傾向にあります。それらを回避するためには「なるべく感度に余裕のある明るいカメラ」を使用することが近道です。また暗いからと言って「プロの照明機材」を安易に使用すると、かえって大型カメラ同様、出演者の緊張感が増すので、できれば避けたいのが無難です。

### 推奨は「広角レンズ」必須は「音声の確認」

工場内を歩きながらなど、説明者を移動撮影する時は、特に広角レンズ(35mmカメラ換算で28mmレンズ以下)での撮影をお勧めします。手持ち撮影時の手ブレに強く、少々揺れても画面酔いしない映像が得られます。また手振れ補正機能等があればさらに積極的に活用すべきです。

ほかにも広角レンズを推奨する理由があります。音声収録の利点です。特にカメラ内蔵のマイクを使用する場合、同じサイズでも、下図のように音源近くで撮影でき、周りの雑音を拾いにくいので、結果「適正音量で明瞭な音声」になります。人物などのアップ撮影する場合は「ズーム」を使用せず、広角のまま撮



影者が近づきましょう。

「音声」を軽視した結果、全体のクオリティを低くしてしまった映像が初心者には多く見受けられます。

理想的には別途、収録専用のマイクを使用する方が良いのですが、普段からマイク使用の経験が少ない場合、マイクを持ったり、身に着けたりすることで出演者は緊張します。先ほどの大型カメラの例と同様、普段から慣れてない状況はできる限り避ける方が良いでしょう。

一方で工場内等「騒音」のある現場でどうしても「声や内容が聞こえにくく」なる場合、下写真の様なBluetoothワイヤレスマイクが、ストレス無く収録でき便利です。

どのような状況でも、撮影時は必ずイヤホンやヘッドホンを使用し「カメラ音声の確認」をしてください。ノイズの有無や音



声の明瞭さは、カメラのレベルメーターではわかりません。初心者は特に、この確認をしなかったため、後日「撮り直し」という例も結構多く見られます。

### 慣れてきたら、編集を意識した効率的な撮影を

手持ち撮影の場合、カメラを無造作に左右に振ったり、頻繁にズーム使用せず、なるべく「動かさず固定に近い状態」で撮影することが重要です。ただし別の角度や方向に移動したり、向きを変える時など、どうしてもカメラを動かしながら撮影しなければならない状況は起こります。その場合も慌てず、このカメラ移動は「じっくりと画面が揺れないよう、ていねいにカメラを動かす(動いているところを見せる)」撮影なのか「とにかく速く次の画面へ瞬時にカメラを向けて移動したい(編集のカットが変わるのに近いイメージ)」なのか、この2択を意識をして撮影中の移動するだけでも、かなり見やすい映像になりますので試してみてください。

これらを撮影中に意識することでWeb動画の質向上につながり結果的に、失敗の回数を減らし、現場でのスタッフ拘束や撮影時間が短くなり無理のない制作が可能になります。